

日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
IGAC 小委員会
第 24 期・2018 年度・第一回
議事要旨

日時：平成 31 年 2 月 19 日（火）13 時 00 分～14 時 00 分

開催場所：国立環境研究所 大気共同実験棟 203 号室

出席者：谷本浩志（委員長）、*持田陸宏（副委員長）、*金谷有剛（副委員長）、猪俣敏（幹事 議事録）、*入江仁士、*江口菜穂、*笠井康子、*黒川純一、*齊藤尚子、関山剛、*高橋けんし、永島達也、*中山智喜、町田敏暢、*松本篤、*松本淳、*宮崎雄三、*森本真司、*藪下彰啓、*米村正一郎 計 20 名

*ビデオ会議での参加

欠席者：植松光夫（連携会員）、張勁（連携会員）、竹川暢之（副委員長）、松田和秀、森野悠 計 5 名

議題

1. 委員長、副委員長、幹事の選任について
2. iCACGP-IGAC 2018 国際会議の開催報告
3. 第 24 期の活動について

まず、第 23 期の委員長を務めた谷本委員が議事の進行を行なった。

議題に先立って、谷本委員から議事要旨のまとめ方について日本学術会議事務局から連絡があった、委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドラインの紹介があった。

議題 1 として、IGAC 小委員会における委員長、副委員長、幹事の選任をおこなった。谷本委員より、第 23 期における主な活動であった、iCACGP-IGAC2018 国際会議が終わり、第 24 期（2018-2020）は今までほどの活動量は必ずしも必要ない可能性もあるが、2020 年に次回の IGAC 国際会議があること、谷本委員の IGAC SSC 任期が 2020 年までであり、2021 年からは新しい SSC が選ばれることを程度想定して、委員長、副委員長、幹事の選任を行うと良いだろうと説明があった。また、想定される委員長、副委員長、幹事の役割として、委員長：全体統括および当日の議事進行、副委員長：事前の日程調整、資料準備依頼、幹事：議事録作成、がそれぞれ考えられるとの説明がなされた。さらに、IGAC のスポンサーである iCACGP は日本学術会議には小委員会がないものの、コミュニティとしては IGAC と実質同じであり、これまでの竹川委員に加えて、2019 年から持田委員が新しく iCACGP 委員となったこともあり、iCACGP の情報や活動を IGAC 小委員会で共有することにも一定の

メリットはあるとの説明がなされた。以上のことから、第 24 期の IGAC 小委員会の委員長、副委員長、幹事については、国際委員がリードする形で、IGAC 小委員会の委員長として谷本委員、副委員長として竹川委員、持田委員、金谷委員、幹事として猪俣委員が候補として提案された。

委員長 谷本 (IGAC SSC)

副委員長 竹川、持田、金谷 (iCACGP 委員)

幹事 猪俣

(町田委員) 賛成

その他、意見なし。谷本委員から、出席している持田委員、金谷委員、猪俣委員に意見が求められた。

(持田委員) 委員長一人では大変だったと思う。副委員長を置くことに賛成で、また多くいることで盛り上がっていくと思う。

(金谷委員) 国際的なつながりを大事にして、役目を果たしていけたらと思う

(猪俣委員) 引きつづき任務を果たす

提案は承認された。

議題 2 として、

谷本委員長から、iCACGP-IGAC 2018 国際会議の事後の事務処理として、会計の締めと報告書の作成・提出が残っているとの説明があった。

特に議論なし

議題 3 として、

谷本委員長から、2019 年の大気化学討論会後に、大気化学若手研究者ショートコース 2019 を行う計画であることが提案された。2019 年 11 月 8 日に名古屋大学での開催ではどうか、との提案があった。世話人／講演者として、IGAC 小委員会メンバーから、谷本委員長、持田委員、竹川委員、金谷委員、また iCACGP-IGAC2018 の Early-Career Scientist Program の世話人をした坂田さん、石野さんを予定。主催・共催・後援機関として、日本大気化学会、IGAC 小委員会、NIES、名古屋大学 ISEE が候補である。

(町田委員) 若手研究者への旅費の補助に関し、討論会に出すより、ショートコースに出すほうが費用対効果がいいと思う。また、大学も学生に旅費を出しにくいと思うので。

このショートコースが、今後続く若手育成プログラムの試金石になると思うので、あまり負担にならないように、今回の提案くらいがいいと思う。

日本大気化学学会会計幹事として、学会にもお金があるので、有効に使えればと思っている。

次に、持田委員から、iLEAPS/IGAC-Japan 合同研究集会 2019 の開催趣旨等について説明があった。開催日は 11/8-9 が一案であるが、ショートコースとバッティングするので、調整が必要である。趣旨は、大気／陸域境界の物質交換やそれに関わる諸過程の解明を目指す iLEAPS と、大気化学の視点から物質循環・大気過程・化学組成の解明を目指す IGAC のそれぞれのコミュニティの研究者が集い、大気と陸域の相互作用に関わる研究の話題提供と討論を行うとともに、当該分野の重要課題と、その解明に向けた今後の研究の方向性を議論し、異分野間の連携による研究の可能性についての意見交換も行うことである、との説明がなされた。

谷本委員長から、IGAC 小委員会メンバーから持田委員を手伝える人がいたら手伝ってあげてほしい旨の依頼があった。

次に、谷本委員長から、IUGG General Assembly 会議の開催の案内があった。関連セッションとして、M08 - Air Quality in the Changing Anthropocene および JM02 - Anthropogenic changes in Chemistry and Physics of the Atmosphere が紹介された。笠井委員から、大気化学衛星のセッションもあることが紹介された。

最後に、谷本委員長から、次回の会議は春のうちに開催予定とのアナウンスがあった。

なお、本議事要旨はメールで回覧のうえ、修正は委員長一任とする旨が承認された。